

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：保健管理センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p>	<p>自己評価</p>
<p>①-1 目標 担当理事の目標に沿って、メンタル系疾患の発症予防のための啓発活動を教育の第一の目標とする。当センターの教育目標は、学生が生涯にわたって心身の健康を維持できるための「正しい健康観」を身につけることと考えている。</p> <p>1. 教育の実施体制 フィジカル面では「健康スポーツ科学」、メンタル面では「キャンパスライフとメンタルヘルス」の二つの講義を中心に実施し、喫煙の問題について保健管理センター講演会、出前講義、学生保健ネットワーク、研修会などで対応する。</p> <p>2. 教育方法・内容 講義・講演会・研修会のみならず、健康診断や外来を通して、学生とface to faceで対応する場面の中での医師、保健師、栄養士が健康に関する教育を行う。学生には禁煙外来も行って支援する。</p> <p>3. 教育の成果 成果については、授業の成績・アンケートなどで評価する。なお、評価についてはメンタル系疾患の受診率も参考とする。</p> <p>4. 学生支援について 就職時や国家試験における診断書の作成を行う。健康診断・事後措置・外来におけるよろず相談の場としてセンターが存在し、その中で健康教育を行う。</p>	<p>1:2つの教養科目は滞りなく実施した。講演会は、フィジカル「眠り」、メンタルは「性同一障害」に関する講演を行い、それぞれ80人、126人の学生・職員が参加した。学生保健ネットワークは14件の配信、出前講座・啓発講演（授業を除く）はメンタル系を中心に学生向け13回、職員向け22回を行い、目標に達したと考える。</p> <p>2:健康診断時に禁煙の指導、ワクチン接種による感染症予防を中心に啓発を行った。教育活動に使用するパンフレットは適宜改訂あるいは新規に作成した。また、新たに外来待合室に電子掲示板を設置し、時々刻々の感染症情報や外来変更などの通知が行えるシステムを構築した。</p> <p>3:「健康スポーツ科学」の受講者は146名、期末試験平均点は77点、「キャンパスライフとメンタルヘルス」はそれぞれ前期72名、85点、後期108名、84点であった。H24年後期の授業評価アンケート結果が出ていないが、健康スポーツ科学の講義内容、形式は概ね好評であった。メンタル系疾患でのセンター受診者は515名で、平成23年度(445名)より増加傾向であった。</p>
<p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 教育領域として重視する客観的指標は以下の3点とする。</p> <p>1. 保健管理センター関連の講演会の開催(フィジカル、メンタル各1回以上)。 2. メンタル系講演・講義の依頼に応える。出前講義、研修会をH23年度以上を行う。 3. 学生保健ネットワークのアップ数 年間10件以上。</p>	<p>4: 学生支援としては、保健管理センター一年間の外来受診総数は8,224人(一般外来受診5,595名、健診事後措置1,753名他)であり、就職時の健康診断書発行 2,901枚、国家試験証明書133枚という結果であった。これ以外に学生の健診受診者は9,244名であった。</p>
<p>②研究領域</p>	<p>自己評価</p>
<p>②-1 目標 組織としての研究は、健康や疾病に関する集約的(疫学的)研究と個々の事例検討による報告が主となる。</p> <p>1. 研究水準及び研究成果について 保健管理センターが主催する保健管理研究会やメンタル系学会・研究会が発表の場となり、定期的に応募・採択される内容の研究を行う。また、これらを論文、報告書として記録できる形とする。昨年度はアレルギー疾患、今年度は甲状腺機能異常に焦点を当てた研究を行う。</p> <p>2. 研究実施体制等の整備について 本センターの存在意義より、研究設備を設置する予定はない。研究実施体制としては、科学研究費などの獲得により、疫学的あるいは健康教育的な研究が実施できる体制を図りたい。</p> <p>3. その他 今年度は岡山大学が主催する第36回日本心身医学会中国四国地方会および第15回フィジカルヘルスフォーラムを行う予定であり、学会を滞りなく、成功裏に終えること、また、充実した会にすることを重要な目標とする。上記以外に、個々の職員が大学病院などとの連携によって行っている研究はそのまま続行するが、詳細は割愛する。</p>	<p>1: 基本となる大学保健管理研究会には、全国集会3件、中国四国地方会3件(フィジカル系4件、メンタル系2件)を発表して当初の目標に達した。他に健康診断で行った尿中コチニンの測定結果を日本呼吸器学会誌に投稿して採択された。</p> <p>2: 科学研究費は5件応募して、2件が現在遂行中である。これは、教員数比でみると応募、採択とも悪くない数値と考える。</p> <p>3: 心身医学会およびフィジカルヘルスフォーラムを主管大学として、岡山で開催し、心身医学会85名、フィジカルヘルスフォーラム122名の参加者を数え、成功裏に無事終了した。</p>
<p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 研究領域として重視する客観的指標は以下の3点とする。</p> <p>1. 全国、中四国大学保健管理研究会にフィジカル、メンタル各2演題以上の発表。 2. 主催の学会を成功裏に終える。 3. 科学研究費の全員応募と採択率の岡山大学全学平均を上回ること。</p>	
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p>	<p>自己評価</p>
<p>③-1 目標 組織としての「社会貢献」への取り組みは、当センターでは方法論の問題でなかなか困難であり、個々の職員(主に教員)が自ら判断し、可能な限り活動(保健所関係からの依頼講演、医師会依頼の医学的講演、学会依頼の市民公開講座・講演、学校関係からの依頼講演、講習会など)している。法人化後、労働安全衛生関連の職務増大に伴い、学内業務が中心となり、対外的な社会貢献活動は今後ますます困難になっているが、各教員毎に、本務に支障のない範囲で対応している。</p> <p>1. 地域社会との連携、社会貢献について 平成26年4月1日の岡山大学敷地内全面禁煙を目指して、近隣の町内会にも理解を得るために安全衛生部との協力のもと連携を深め、大学と地域が一体化して受動喫煙防止が図れるように努める。</p> <p>2. 国際交流・協力、外国人研究者の雇用について センター内での留学生への外来、健康診断をおして健康支援を行い、留学生が本邦における快適な生活をおくれるための一助となるよう援助する。</p>	<p>1: 平成26年4月1日の岡山大学敷地内全面禁煙を目指して現在も着実に受動喫煙防止の啓発活動、喫煙場所の削減などを行っている。</p> <p>2: 留学生健康診断受診者は平成23年度395名、平成24年度398名であった。正確な受診率が把握できないが、ほぼ「例年並」と考える。</p> <p>3: その他、社会貢献活動のひとつとして、学外での講演は個々の教員が独自に行っており、メンタル系を中心に学外講演・講習は計31回行った。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 社会貢献領域として重視する客観的指標は以下の2点とする。</p> <p>1. 具体的数値は難しいが、対外的な講義・講演などに積極的に取り組み、本年度以上の回数を行うことを目標にする。 2. 留学生健診の受診率を平成23年度より上昇させる。</p>	
<p>④センター業務</p>	<p>自己評価</p>
<p>④-1 目標 担当理事の目標に沿って、学生健康診断の充実および禁煙教育・支援を目標とする。また、労働安全衛生を主眼においた業務目標を立てる。</p> <p>1. 健康診断・事後措置の精度向上を図るため、ICカード導入および診察医現場入力の充実を図る。 2. センターで禁煙教育、禁煙支援のための学生教育(健康診断、講義、外来)をおこなう 3. 受動喫煙防止WGおよび禁煙教育WGの中で保健管理センターが中心となって活動を行う。 4. 労働安全衛生における巡視の充実 5. 障害者雇用を含めた職員の面接をさらに充実させる。</p>	<p>1: 健診のICカード導入、診察医現場入力は定常化し、誤入力防止、精度向上、最終診断までの時間短縮につながった。1年生の健康診断受診率は、休学などの事情を除けば、ほぼ100%であった。在校生の健康診断受診率は、平成23年度64.3%が、平成24年度では61.2%であった。</p> <p>2&3: 受動喫煙防止に関しては健診、教養講義、学生への講習会、オリエンテーションなど、多面的に行って啓発に努めた。男子学生喫煙率は平成23年度6.0%が平成24年度には4.9%となり、全体の喫煙率は明らかに5%以下となった。</p> <p>4: 月1回の巡視を、センター所属の2名の衛生管理者が、産業医と共に、結果を安全衛生委員会で報告して、改善への取り組みを促した。</p>
<p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 センター業務として重視する客観的指標は以下の3点とする。</p> <p>1. 新入生健康診断受診率100%とする。 2. 在校生健康診断受診率をH23年度より上昇させる。 3. 全学生の喫煙率を5%以下にする。</p>	<p>5: グッドジョブセンターの雇用時は全員に産業医および必要な場合には精神科医・保健師が面接を行い、就職後に予想される問題点などについて検討を行い、さらに、就職後も定期的に経過をみるシステムができた。</p>
<p>【総括記述欄】</p>	
<p>全体として、ほぼ安定した年度と考える。現状の分析と、それをふまえた保健管理センターへのミッションを考え、以下に記載する。</p> <p>①教育活動: 主たる目標であるメンタルヘルスに関連した講義、研修活動は充分達成できた。ひとつには学生に対して生涯にわたる正しい健康観を身につけてもらうための教育を行いたい。また、現在、教育分野においてグローバル人材の育成がさげばれているが、その対極には、その「流れ」についていけない支援を要する学生も多数存在する。こういった学生に目を向け、援助して社会へ送り出すことも大学に科せられた大切な使命である。当センターはそういった学生を常にサポートできる場でありたいとも考えている。</p> <p>②研究活動: 目標は達成できたと考えているが、さらに新たな研究テーマを設定して発表・論文文化の作業を進めていくべきと考えている。当センターは研究施設としての要素は少なく、高度な研究業績などの獲得より保健・衛生に関わる実質的な疫学的研究にフォーカスを当てるべきと考えている。</p> <p>③社会貢献: 個々の活動については、特にメンタル系は十分な活動を行っている。センター全体としての社会貢献活動、例えば市民公開講座などを行えるかどうか今後の課題と考える。</p> <p>④センター業務: 胸部X線のデジタル化、ICカード化、PC入力導入、受付IC入力システムなど、業務の精度、迅速性、省力化などは改善しつつある。今後は全学センターとして、鹿田地区との整合性をハード、ソフト両面でみなおすこと、また在校生、職員の健康診断受診率のアップ、など、種々の課題に対応していく必要がある。また、平成25年度より放射線技師が新たに勤務する態勢となり、デジタルX線を健診事後措置や外来業務に活かして、活用の場を広げていきたい。</p>	